

平成20年度 森プロ事業実績：中濃森プロ

(平成21年3月末現在)

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		22.0	20.0	32	160%		46
作業道(m)		1,399.0	2,000.0	3,013	151%	作業路含む	7,000
間伐等	面積(ha)	26.9	60.0	32	53%	利用+切捨	250
	材積(m3)	985	3,200	1,143	36%		9,200
備考		団地外実績:利用間伐5.74ha、搬出材積544m3、作業路開設1,554m					

H20年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

1,212 円/m3

施業集約化の状況

座談会を開催し、平成19・20年度施業地をモデル林と位置付けて森林所有者(地元の区・財産区等)を招き説明を実施し集約化に取り組んでいる。

施業プランの活用状況

プラン書にて個別に説明し承諾を得ている。

施業プランナーの養成状況

・森林施業プランナー:1名



作業道の状況

車両系作業システムであるが、機械システムと将来の経営を考慮し、また、作業ポイントも作設するため、幅員3.0~3.6mで開設。
高密度路網を開設200m/ha



敷石工法による洗越し



完成した高密度路網

作業システムの状況

平成20年度 素材生産性 約 5 m³/人・日

メインシステム: チェンソー(伐倒)→ロングリーチグラップル(集材)→ハーベスタ(造材)→フォワーダ(運材)→グラップル(積込)

状況にあわせて、スイングヤードで道まで集材する方法も選択

山土場仕訳による工場直送システムに取り組んだ。



ロングリーチグラップルによる集材



組合職員による仕訳

山土場仕訳状況

その他

作業システムや作業道開設技術を効率的に修得するため自主的な研修・視察を実施。

- 1 岐阜県議会農林委員会視察
- 2 下呂市役所農林部林務課視察
- 3 砺波地区林業研究グループ協議会視察
- 4 高知県職員(AG)視察
- 5 広島県森林環境づくり支援センター視察
- 6 ドイツ元フォレスター視察
- 7 森林文化アカデミー学生視察
- 8 第7回地域森林管理・経営に関する研修会
- 9 美濃市森の環境づくり推進委員会視察
- 10 石巻地区森林組合視察
- 11 山梨県木材協同組合連合会視察
- 12 岐阜林政研究会視察

森プロの成果

路網整備と高性能林業機械を組み合わせた長伐期・非皆伐施業のモデル林として確立された。

作業路の必要性の再認識

組合内で切り捨て間伐から利用間伐への意識転換が図られた

今後の課題

作業路開設技術の向上(排水、急傾斜地への対応)

素材生産性の向上と残存木の保護

作業路開設時の伐開幅の抑制

森林づくりコンセプトの確立(林況に応じた間伐率・目標森林。未整備森林の取り扱い)

山土場直送システムの確立(システム販売・山土場の確保)

施業集約化の推進

市との情報連絡体制の構築